

JAICOH NEWS LETTER

第 46 号 2005 年 2 月 15 日発行

歯科保健医療国際協力協議会

Japan Association of International Cooperation for Oral Health

事務局: 〒344-0003 埼玉県三郷市彦成 3-86 Tel&Fax: 048-957-2286

発行: 深井穂博 編集: 榑崎正子、梁瀬智子

♪活動紹介♪

ベトナムホーチミン市における歯科医療活動

NPO 法人 日本歯科ボランティア機構 監事、JAICOH理事
森下 真行

「猛スピードで社会構造変革しているベトナム社会からはじき出された子供たち、家庭内の歯車のゆがみから愛情に飢えている子供たち、心身障害を持つ子供たちが素直な心と生きる自信を持つための手助けを、主として歯科保健医療を介して行っていくこと」を活動目的として、2002 年 2 月に日本歯科ボランティア機構 (JAVDO: 理事長 藤岡道治) が創立されました。



JAVDO がこれまでたどって来た道のを簡単に振り返ってみます。2002 年 2 月設立 (理事長 藤岡道治)、同 8 月内閣府より NPO 法人に認定、2003 年 9 月ベトナム政府公認の身体障害児、孤児への支援協会 (The Society for the Support of Vietnamese Handicapped and Orphans Ho Chi Minh City: HASHO) と提携、2004 年 1 月ベトナム政府機関 People's Aid Coordinating Committee (PACCOM) より、ボランティア団体としての活動ライセンスを習得、同 11 月ホーチミン市内に無償歯科診療所を設置し、HASSHO に寄贈 (この診療所では、現地の歯科医師 Ms.Thu が火・木・土の午後に勤務しています)。

JAVDO は 2004 年 11 月までに 21 回の派遣団を送りました (歯科医師 92 人、歯科衛生士 54 人、その他 26 人)。この間、2,985 人の歯科検診を行い、1,497 人に抜歯、充填などの処置をしました。また、歯科衛生士が 296 人にブラッシング指導、89 人の歯石除去を行いました。活動当初はストリートチルドレンが治療の対象でしたが、現在は孤児院、障害者施設などでの治療活動も行っています。

派遣団員を募集しています。詳しくは、ホームページ <http://javdo.org/> をご覧下さい。

筆者プロフィール

森下真行先生: 広島大学大学院医歯薬学総合研究科 (予防歯科学) 講師 / 2002 年 5 月に設立された JAVDO (藤岡道治理事長) で、初めてボランティア活動に参加。以来ベトナムを 2 回、カンボジアを 3 回訪問し、子供たちの支援活動を続けている。

中国国際航空機内にて遭遇したこと

田中 健一先生/埼玉県出身、41 歳。2000 年より北京診療所顧問。北京の他、福島県館岩村の学校教育、埼玉県の自動養護施設でも活動。現在はドイツ医療制度研究班にも所属。

成田を立って 2 時間、急病人を知らせる「医療関係者は申し出てほしい」旨のアナウンスがありました。私は救急の専門家ではなく経験も無いから手伝えない(もっと専門の先生がいるだろう)と考え黙っていました。5 分もしないうち再び同じアナウンスが日本語でありました。私はこんな時こそ、歯科の名誉と尊厳がかかっていると考え直し「できることがあるなら、お手伝いした方がよろしいでしょうか？」とフライトアテンダント(この人は今回の一件で誠心誠意尽くしてくれた N.O さん。日本人。)に聞きました。彼女は私を気分が悪い人の所へ案内したのです。

その病人は 20 代半ばの中国人女性で、意識は混濁状態、息も絶え絶えという状態です。私は応急処置の知識のありつたけを思い出し、救急の ABC に取りかかりました。脈は頻脈であることはわかりましたが、実際計測はできませんでした。病人の回りは 20 人はくだらない野次馬が取り囲んでおり、事の成行きを見ていました。

私は狭い席ではさらに呼吸を困難にさせるので、N.O さんに病人が横になれるようにし嘔吐をして誤飲しないように、顔は横を向けさせました。そして、血圧を計ろうとするとタコメータータイプです。私はこのタイプを始めて使ったこともあり、血圧の測定ができませんでした。私の手技の未熟は疑いようのない事実です。皆さんは救急時、どんな血圧計であっても血圧を測定できる訓練をしておくことを勧めます。歯科の人でも救急処置ができるということを実証することが、歯科の立場を上げることにつながるのですから。

胸の痛みがないことから狭心症や心筋梗塞ではないことを確信しました。さらに、痙攣が見られないことから過換気症候群ではないと判断しました。N.O さんに酸素ボンベを持ってきてもらいましたが、医療用ではなく潜水病や高山病の時に使われるタイプでした。酸度ボンベに**・/分と医療用にはあるのですが、これは L と H とあるだけでした。私はまず濃度の低いものから始しましたが、酸素吸入を 1 分もしない内に客室長がやってきて「酸素は高いからエコミーの客には使ってはならない」と中国語で N.O さんに話したのです。私はこの場に及んでこんな発想ができる客室長および中国国際民航に啞然としました。客室長の一言によって酸素ボンベは取りあげられしまわってしまったのです(おおい、こんな意識が朦朧としている病人の前でもビジネスとエコミーを分けるかねーと心底思った)。仕方ないので水分補給を考え暖かい水を補給するよう N.O さん指示しました。私は飛行機の最も後ろの座

席で処置を行っていたのですが、器材をおいておく場所では中国人フライトアテンダントが大笑いしながらおしゃべりをしているのです、これには再び驚きました。

ボンベも取り払われ、私にできる処置は病人の服のボタンやベルトを緩めて圧迫を減らすこと程度しかありません(もうすでにしている)。そして N.O さんは「緊急着陸を機長に話しますか？」と聞きます。私はこのようなことが私の判断でして良いのかわかりませんでした。そして万策尽きたこともあり、N.O さんに「日本の病院に電話をかけさせてくれと依頼したのです。N.O さんは再び客室長にその許可を取りに行きました。そして客室長は私に「使えるけど、無料じゃないんだ。使いたいならあなたのカードで電話をかけな」と言ったのです。

そうこうしている内にこの客室長は病人の容態に変化がない(良くも悪くもならない)のがわかったのでしょうか。「意識はあるから大丈夫だろ、もうあなたの仕事は終わったから帰って良いよ」と私に言いました。私はなんとその言葉を間に受けて、N.O さんに「あと 1 時間で到着だから、着陸したら救急車の手配をしておくこと、真っ先に降ろすこと」を伝えて自分の席に戻ったのです。しかし、今思えばそばにいなければならなかったのです。私は医療人としてのケアの部分が欠けていたと認めざるを得ません。

元の席についてほどなくして機は北京首都国際空港に到着したのです。しかし、「病人を先におろします」というアナウンスはなく、乗客が先に降りました。全員が退機した後、白衣を着た医師が機内に入ってきたのです。よく中国は人権がないといいますが、実際身を持って経験しました。

後日談：中国でも循環器(心臓)医師として名医として名高い W 北京診療所長に、今回のケースについて相談しました。彼は専門ですので「心室性頻脈」と診断をしました。そしてそのような場合「半側の頸動脈を摩ること、精神安定薬の投与」が必要と教えてくれました。これは私達も知っておきたい知識です。

今回の一件から学ぶこと

- ・応急処置をできる技術(血圧くらいはしっかり取れ)
- ・最後まで病人のそばにいられる医療人であれ
- ・咄嗟の時でも名詞を持っていないといけない(これが自分の ID になる)

一切の脚色なく、当時を再現しました。これは中国民航を誹謗、中傷するものではありません。海外では歯科以外でも総合力が求められていると実感した経験です。

♪学生さんの声♪

口腔内にみる時代背景 ～カンボジアスタディーツアーを通して～

田中宏和さん: 日本大学松戸歯学部4年次在学中。1981年長野県上田市生まれ。硬式テニス部、国際保健部在籍。現在、全国の歯科学生に呼びかけ国際医療を考える団体を設立中。

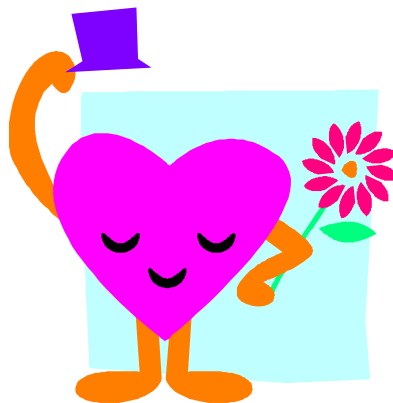
私たち日本大学松戸歯学部国際保健部のメンバー9名は昨年8月20日からの2週間にわたり宮田隆代表が主催する歯科教育国際支援機構(OISDE)のスタディーツアーに参加し、カンボジアに滞在しました。同国で唯一の歯学部を持つヘルスサイエンス大学の学生、明海大学の学生とともに現地でのOISDEの活動に触れさせていただきました。私は2年前にもカンボジアのスタディーツアーに参加しましたが、今回もこの国の抱える問題に直面しました。今回はカンボジアの農村地帯に入り農村部の人々への口腔衛生指導などを行いましたが、口腔内の環境は想像していた以上に劣悪なものでした。



診療中の田中さん

私は、ある女性に「なぜこのようになるまで歯磨きもせずにしたのか」と質問しました。その答えは「ポルポト時代は歯ブラシさえ手に入らない状況下で、歯など磨けなかった」というものでした。私はその答えに、この国の抱える時代背景が口腔内という狭い領域にまで反映されていることに、何か物悲しさ感じました。まさしく現在のカンボジア国内の医療事情は時代背景が影響しています。1970年代ポルポト政権の下、都市文明を否定し、知識人が多く虐殺されました。その結果、歯科医師は国内で6名にまでなってしまった現実がこの国にはあります。

今回、宮田代表の紹介でJICA オフィスを訪れる機会がありました。そこで聞いた話では、現在カンボジアを動かす原動力となる世代が学齢期に基礎教育を受けることができなかったためにカンボジアの指導者不足が露呈し、教育は途上であるとのことでした。しかし、私が2回にわたりカンボジアで感じたことは、カンボジアの未来は暗くないということです。というのは、宮田代表が指導している学生や現地スタッフたちは、大変貪欲な姿勢を持っており、「なんとかこの国を変えよう」とする意欲がひしひしと伝わってくるためです。日本がカンボジアやアジア各国に歯科医療を学ぶ日も、もうそこまで来ているかも知れない…と感じました。



第 16 回歯科保健医療国際協力協議会総会および学術大会のご案内

毎年、JAICOH 総会に併せて、学術大会を開催しています。わが国の国際保健医療協力に関わる団体や個人がその活動の成果や発表する機会を通して、関係者の情報交換の場となっています。今年は、下記の日程で開催いたします。会員多数のご参加およびご発表をお待ちしております。

記

- ◆会期 2005 年 7 月 3 日(日曜日)午前9時半受付開始 午後 5 時より懇親会
- ◆場所 昭和大学歯科病院臨床講堂(6F)東京都大田区北千束2-1-1
最寄駅 東急目黒線洗足駅下車徒歩 2 分(目黒洗足間約 8 分)東急大井町線北千束駅下車徒歩 5 分
- ◆会費 千円(資料・懇親会費を含む)
- ◆演題の申込要領
 1. 演題は、国際保健医療協力に関連したものに限りませう。
 2. 表形式・時間 口頭発表のみ、発表時間は1題につき講演 10 分質疑 5 分、スライドプロジェクターは 2 基使用可能(左右のスライド枚数は同数としてください)
 3. 発表者は本会会員に限りませう。未入会の方は当日、会場にて入会手続きを行ってください。
 4. 演題の申込の内容:(1)~(4)の内容を記載し、フロッピーを添えて下記宛先まで送付してください。
(1)演題名、(2)発表者の氏名および所属;連名の場合、発表者名の前に○印を付けて下さい、(3)発表者の連絡先(〒、住所、電話、FAX、Email)、(4)事前抄録(1200 字程度、目的、対象および方法、結果および考察、結論にそって記載ください)
- ◆演題申込み締切:2005 年 5 月 31 日(月)必着
- ◆申込み送付先:〒145-8515 東京都大田区北千束 2-1-1 昭和大学歯周病学教室内
第 16 回 JAICOH 総会事務局 大会会長 鈴木基之宛
- ◆問い合わせ先:JAICOH事務局 深井(TEL:048-957-2268 Email:fukaik@ka2.so-net.ne.jp)

～ 編集後記 ～

新年を迎え、あっという間に立春が過ぎ、暦では春のはずなのに・・・まだまだ毎日寒いですがね。私の勤める茅ヶ崎でも、小学校の学級閉鎖が相次いでいます。その一方で風邪と無縁な子どもたちは、学校がお休みだからといって外で遊べるわけでもなく、暇と元気を持って余っているようです。ユニットに寝てからもベラベラとしゃべりまくり、ラバーダムをなかなかかけさせてくれませう(笑)。

今号でも JAVDO の森下先生、OISDE のスタディーツアー参加の田中さんと、2 つの活動紹介をさせていただきました。異国での皆さんの努力や苦勞、頑張り、感じていること。励まされるのは私だけではないはず・・・と思いながら、拙いながらもニュースレターの編集をさせていただいています。

2005 年も、様々な活動を紹介していきますので、楽しみにしててくださいね。

私自身も年末から年始にかけ、ネパールでの歯科保健医療協力に参加しました。毎回、活動を通じ、歯科衛生士として人間として女性として、日本人として・・・感じ、想うことや教えられることが沢山あります。活動を続けていくためにも、これからは自分のライフステージとの両立が課題だなぁ・・・と思うこの頃です。

ニュースレター編集 梁瀬